

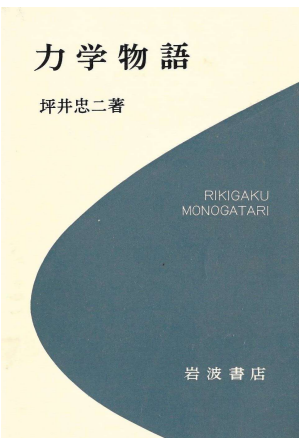
図書案内

2024年 1月号

学問

今月のテーマは「学問」です。皆さんは学問と聞いてどのような印象を持ちますか？中部高校の生徒にとっては日々の授業や受験などの勉強を連想することが多いと思います。しかし、それだけではなく学問というものは「自分の好きなことを追求すること」だと思います。例えば、周りから見ると勉強に見えなくても自分の持つ好奇心に従ってある物事を満足するまで追求することも学問の在り方の一つです。自分の学びたい学問を見つけ、学びを追求することも大事な学問でしょう。

『力学物語』／坪井忠二



本書は身の回りの現象を皆が知る物理や数学の知識で説明していくところから始まり、だんだん話が発展していく。結論にはあっと驚くものがあり、物体の重要な物理的性質がおもちゃなどに活かされて日常にあふれていることを知ることになる。力学の原理的説明も多いのでぜひ学習が退屈に感じた時に読んでみてほしい。

同じ1 kgでも、空気中で測れば鉄の方が重く、綿の方が軽いということになる。“なぜなぜ”の出題者もここまでいわれると頭をかくことだろう。



『何のために「学ぶ」のか：〈中学生からの大学講義〉』

／桐光学園+ちくまプリマー新書編集部

大事なものは知識じゃない。正解のない問いに直面したときに、考え続けるための知恵である。変化の激しい時代を生きる若い人たちへ、学びの達人たちが語る、心に響くメッセージ。

鷲田清一など著名な学者陣が我々高校生に学ぶことの価値、すばらしさを教えてくれます。

「知識と思考は反比例する」



『博士の愛した数式』／小川洋子



この物語はシングルマザーの家政婦杏子が、記憶が80分しか持たない数学博士の家に派遣されることから始まります。博士は杏子の息子を「ルート」と呼んでかわいがるようになり、杏子は博士とのコミュニケーションに苦労しながらも、彼の語る数式の美しさに魅了されていきます。3人の心温まる日常を描いたお話の中には、完全数をはじめとした数学に関するものが多く登場します。数学な得意な方は数式に込められた思いを考察してみるのも楽しいかもしれません。博士が愛した数式とは何なのか。ぜひこの本を読んで確かめてみてください。

どんな数字でも嫌がらずに自分の中にかくまってやる、実に寛大な記号、それがルートだよ。



『歴代天皇総覧』／笠原英彦



この本は題名の通り、日本の歴代の天皇が初代の神武天皇から第124代の昭和天皇までの生涯と事績を簡潔にまとめたものです。私は以前から歴史には興味はありましたが、日本の天皇家が世界の王朝で一番長いと聞きより一層興味を持ちました。一度深い興味を持つと自分が満足いくまで調べていくうちに、地理選択にも関わらず、初代から第126代までの天皇（今上天皇）を全部覚えてしまいました。とても満足感を覚え、学問とは素晴らしいものであると感じています。皆さんも自分の好きなものを満足いくまで学ぶ「学問」を楽しみましょう。

天皇が絶えず望んだのは戦後復興と国民生活の着実な向上であった。



共通テストの歴史

今月13日と14日には共通テストがありましたね。共通テストの前身が大学入試センター試験だったことはとても有名ですが、皆さんはセンター試験のまた前に実施されていた入学試験が何か知っていますか？そのテストは国公立大学共通第一次学力試験(通称：共通一次)と言われていて昭和54年(1979)から平成元年(1989)まで実施されていました。当時は今より大学進学率は低かったものの、18歳人口が今より50万人ほど多かったことを考えると昔の大学入試も今と変わらず厳しい争いだったことがわかります。3年生の皆さんはこれから2月にある二次試験に向けて頑張ってください!!!

参考：<https://www.dnc.ac.jp/about/enkaku/history.html>